

学校番号	学 校 名	校 長 名
65	川崎市立久末小学校	齊野 保史

学 校 教 育 目 標	今年度の重点目標
-------------	----------

【共に笑顔で輝き合う学校をめざして】
○経営方針
1. 一人一人が互いに尊重し合う学校【徳】
2. 確かな学力をつけ、学ぶ楽しさを味わうことのできる楽しい学校【知】
3. 仲間と生き生きと健やかに過ごす学校【体】
4. 子どもや保護者、地域から信頼される、開かれた学校
5. 子どもや保護者、地域と共に学ぶ教職員

経営目標
めざす子ども像
【約束を守る子】【思いやりのある子】
1. 人やものに自らかかわり、その笑顔をさらに広げていく。
【根気よく学ぶ子】
2. 学びに向かう意欲、考え判断し、解決・表現する力を育んでいく。
【たくましい子】
3. 健康を意識し、健康で過ごせる環境に感謝する気持ちを育てる。

私たち大人
4. 学校・家庭・地域が協力し、子どもたちをとりまく環境を整える。
5. 子どもたちのための学校生活の充実のために、教職員の研修・研究を進める。

めざす子ども像に対応して
1に関して
(1) 気持ちの良いあいさつの日常化を図る。
(2) 自分のできることを増やし、仲間と共に活動する場を広げていく。(ニコニコ交流や地域との交流)
(3) 人権尊重教育の日常化を図り、命を大切にする心を育てる。
(4) 学校の約束、学級の約束、先生との約束、友達との約束を確認する。
(5) 教育活動を通じて、自分を大切にする、また他人を思いやる心や正義を重んじる心等、豊かな人間性を育み、いじめの未然防止に努める。(共生＊共育P、効果測定の効果的活用)
2に関して
(1) 「久末ナビ」を生かし、基本的な学習ルールの定着及び基礎学力の向上をめざし、学ぶ意欲の伸長を図る。
(2) 友だちとのかかわりを通して、より良い方法を見いだす楽しさや根気よく学ぶ大切さを実感させる。(主体的・対話的で深い学びの具現化)
(3) GIGA端末活用を通して、各教科等での学びをつなぎ、探求し、課題を解決できるようにする。
(4) 朝の読書タイムの充実や読書ノートの活用を図り、本に親しむ心情を育む。
3に関して
(1) 「久末ナビ」を生かし、生活習慣の定着を図る。
(2) かわさきキラキラチャレンジを通し、運動への関心を高めていく。
(3) 学校保健、学校給食を通して、健康教育の発展を推進するとともに、友だちの体を思いやる優しい気持ちを育てていく。
(4) 交通安全指導、防犯防災指導や勤労生産・奉仕的活動の充実を図る。また子どもたちにとって安心安全な環境づくりを計画的に進める。
4に関して
(1) 地域や家庭との連携を大切にし、学校の様子を積極的に発信することで、子どもたちへの理解の在り方を共有していく。(コミュニティスクール会議・学校公開・教育相談・学校説明会・学校報告会・学校HP・小中連携・幼保小連携)
(2) 地域の人や環境とのかかわりを大切にする教育活動を大切にし、我が町「久末」の良さを伝えていく心を育てる。
5に関して
(1) 子どもたちの困り感に寄り添うべく、チームによる児童支援活動の推進を図る。
(2) 人権尊重教育の日常化を図り、命を大切にする心を育てる。
(3) 個に応じた指導を工夫し、個別最適な学びの場の充実を図る。
(4) 学習指導要領の趣旨を踏まえ、教職員の研修の充実を図る。(学びを繋ぎ、学びを促進するファシリテーターの役割を意識して)
(5) 学年教材研究、交換授業を充実させて、指導と評価の充実を図る。
(6) 校内研究【算数】を充実させ、わかる楽しさ、ともに学ぶ楽しさを大切にした授業の創造を図る。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	【約束を守る子】【思いやりのある子】 人やものに自らかかわり、その笑顔をさらに広げていく。	1. 学校アンケートで、子どもたちの肯定的な回答率は約80%で、昨年度から引き続きよい回答率だと捉えている。全校であいさつしているこうとする姿勢が定着しているようだ。 2. 高学年では、ニコニコ交流の企画を、国語の授業(「よりよい学校生活のために」話す・聞く)と関連させて取り組んだことで、深い話し合いができた。 3. アンケートでは86%の子どもたちが「時間を守ること」の大切さを自覚していると回答している。ふだんの学校生活では、ノーチャイムで時計や放送を意識して行動できている子どもたちである。学校全体で言われて動くのではなく、時計を見て自分で判断して行動する姿もあらこちで見かけられた。 4. 今年度もSC,COとの連携を充実させながら保護者の方々の相談や児童の困り感に寄り添うべく、面談を計画的に実施してきた。時々見られるスマートフォン等の使用を発端としたトラブルでは、情報モラル教育を行うとともに、家庭にも協力を呼びかけた	1. あいさつを含め、言葉の大切さを朝会等で子どもたちに伝えていく活動に今後も取り組みたい。児童発信の「あいさつ運動」等の活動についても引き続き支援していきたい。 2. これからも子どもたちの活動に対する姿勢を認め、支援していきたい。新たな活動に対して大人からの適切な支援ができるような時間の確保を引き続き行っていきたい。 3. アンケートでは保護者から76%の肯定的な回答をもらっている。子どもたちは、学校での指導だけではなく、家庭生活でも時間を守ることの大切さを学んでいることがうかがえる。これからも学校と家庭が同じ価値観をもって一緒に子どもたちの成長を喜びたいと思う。 4. アンケートでは子どもたちは、88%と昨年度に引き続き肯定的な回答率だった。多くの子どもたちが安心して学校生活を送れていることがうかがえるが、10%の子どもたちが否定的な回答をしている状況は変わらない。「みんな」が安心してきているのではない現状を受け止め子どもたちにとってさらに相談しやすい環境整備に尽力していきたい。情報モラルの公開授業については今後も行い、保護者への参加の呼びかけも続けていきたい。
2	【根気よく学ぶ子】 学びに向かう意欲、考え判断し、解決・表現する力を育てていく。	1. 各教科の中で、自ら興味を持って学習する姿勢が見られた。アンケートでは、子どもたちの肯定的な回答率は80%で、昨年度とほぼ同様の結果となった。学習した内容の定着については、あまり、芳しい状況ではないようだが、子どもたちの学習に向かうとする気持ちは毎年少しずつ高まってきているように感じている。 2. 相互指示的な学級の雰囲気学習の場面でも生き、互いに学び合えるようになってきた。ただ、学級内支援以上の手立てが必要な児童が一定数いるので、助け合いだけでない支援を考えていく必要がある。 3. 校内の情報部会を中心にGIGA端末の授業での効果的な活用について考え、共有を図ってきた。 4. 司書教諭や学校司書が中心となり、図書ボランティアさんの協力をいただき、図書環境の充実に努めてきた。また、地域の方々による「読み語り」も	1. 教室掲示や学年掲示板を活用し、既習を大切にし基礎学力の定着を図っていく。また、生活経験につながる問題をつくったり、具体物を使ったり、体を動かしたりすることで好奇心を高めたい。意欲的に学習に参加する態度を養ってきたい。 2. 学び合いの約束を決めて、児童が主体的に学び合う時間を積極的につくる。(自由進度、個別最適で協働的な学び) 3. 「かわさきDパレット」等、7年度に新たに加わった機能を効果的に活用していく方法について考えていきたい。 4. 引き続き司書教諭や学校司書が中心となり、図書ボランティアさんの協力をいただき、図書環境の充実に努めていきたい。
3	【たくましい子】 健康を意識し、健康で過ごせる環境に感謝する気持ちを育てる。	1. 「学校に行くことが楽しい」という質問に対して、子どもたちの肯定的な回答率は80%で、保護者からの回答率も83%とほぼ同じである。多くの児童が学校での活動を楽しみにしている。しかしスタートが遅れてしまい、うまく活動に参加できないでいる児童も一部いる。 2. 児童会を中心とした「キラキラタイム」の充実に努めてきた。「運動したり、体を動かしたりすることが好き」という質問に対して、子どもたちの肯定的な回答率は84%で、保護者からも82%という回答率だった。「運動することが好き」という子どもが多いことがわかる。 3. 学校アンケートでは、85%の子どもたちが「安全に気をつけている」と回答している。保護者からも82%と高い肯定的な回答率である。養護教諭による「けがの予防」や栄養教諭による「食育」の授業を学年のカリキュラムに合わせて行った。 4. 「火事や地震などにあったら、そのように対応したらいいか知っている」という質問に対して、子どもたちの肯定的な回答率は94%だった。子どもたちは年6回の避難訓練の際、約束をしっかり守っている。	1. 日常の大半を過ごす学校が子どもたちにとって「楽しい」という場所でなくてはならない。否定的な回答率が17% (保護者は16%) という現状を真摯に受け止め、来年度にむけての改善点を明らかにしていくべく検討を進め、学年や諸行事の取組などを見直してきたい。 2. 「キラキラタイム」の活動がさらに充実したものにできるよう、大人ができる支援を今後も考えていきたい。他校の取組等も参考にできるよう、情報収集に努めていく。 3. 子どもたち自身が学校全体の安全について考えていけるよう、日々意識しながら指導に当たりたい。養護教諭や栄養教諭による授業は続けていきたい。 4. 自分の身を守るためにどのような行動をすればよいかを自分で正しい判断ができるよう、これからも指導していきたい。実際の災害時に(あつてほしくありませんが)、学校での訓練を学校外でもいかにせるような視点を大切にしていきたいと思っている。

4	学校・家庭・地域が協力し、子どもたちをとりまく環境を整える。	1. 地域や家庭との連携を大切にする。 2. 我が町「久末」の良さを伝えていく心を育てる。	1. 学校説明会や報告会では、保護者の方々の出席率をさらに上げていくことが、児童理解の在り方の共有を進めるために重要なことであると考え、この「自己評価報告書」等を使って保護者と呼びかけてきた。学校評価アンケートは予告から回答開始までの時間をなくし、連絡を受けてすぐに回答ができるように変更した。 2. 各学年における栽培・収穫活動は、地域の方々の指導をいただきながら継続して行った。2年生の生活科「もっとなかよし町たんけん」の学習で、地域の方々とたくさん関わることができた。自分たちが疑問に思ったことを、進んで尋ね、久末の地域の方がどんな事を考えながら過ごしているのか気づくことができた。5年生の道徳で「地域を支えてくれた人々」を扱ったときにも、久末の地域の方々のことが上がった。地域に支えられていることが子どもたちの中に浸透している。	1. これからも学校説明会や報告会、懇談会等への参加率を上げていくことが、児童理解の在り方の共有を進めるために必要である、との考えのもとに、方法を考えていきたい。「学校評価アンケート」の回答率を上げるためにできることを考えていきたい。 2. ・2年生までの生活科の学習をもとにして、3年生の社会科や総合学習の活動につなげていきたいと思っている。子どもたちに「地域の中で育っている」意識が根付いている。今後も、野菜作りや町探検、バザー等でお世話になっている地域の方の存在を伝えていく。
5	子どもたちのための学校生活の充実のために、教職員の研修・研究を進める。	1. チームによる児童支援活動の推進を図る。 2. 人権尊重教育の日常化を図る。 3. 個別最適な学びの場の充実を図る。 4. 学習指導要領の趣旨を踏まえ、教職員の研修の充実を図る。 5. 学年教材研究、交換授業を充実させて、指導と評価の充実を図る。 6. わかる楽しさ、ともに学ぶ楽しさを大切にした授業の創造を図る。	1. 毎月の児童指導部会で、今起こっている課題について話し合い、全教職員の共通理解のもと指導に当たった。児童の抱えている困り感を早めに感じ取り、指導に生かせるような研修も行った。 2. 道徳の時間以外の活動でも、人権を意識した声掛け等、教師が意識して行ってきた。人権教育にかかわる研修を行う機会は多くはなかった。 3. 現在行っている指導に加えて、GIGA端末を使って「個別最適な授業」の実践等を見に行き教員は何人かいた。自分の授業改善にはまだ生かし切れているとは言えない。 4. 長期休み前に、教職員に研修希望を取り、外部から講師を招いて取り組むことができた。「やりたい」気持ちを大切に研修計画を立てた結果、より深い学びにつながったのでは、と思っている。 5. 今年度も学年会で、皆で教材研究を進め、共通の目標に向かっての手段や手だての共有を推進した。高学年の交換授業は年間を通して行い、児童理解の充実につながった。専科指導は高学年の音楽、体育、書写で、中学年の音楽(4年生のみ)、書写、外国語活動で行った。 6. 校内研究では外部講師を招いて全7回の授業研究会を行うことができた。算数科の指導を通して「学び合い」、対話的で深い学びについて考えることができた。	1. 引き続き児童指導部会で、今起こっている課題について話し合い、共通理解のもと指導に当たれるようにしていく。 2. 今後も人権を意識した言葉かけができるよう努める。長期休み等を使って、人権にかかわる兼研修を行いたい。 3. GIGA端末を使った「個別最適な学習」について、研修する機会をつくり、実際の指導に生かせるようにしたい。 4. 「やりたい」気持ちから行った研修の良さを普段の学習指導にも生かせるようにしたい。「探求的な学び」につなげたい。 5. 来年度も学年会の時間を使って皆で教材研究ができるようにしたい。高学年の授業交換は来年度も継続し、より多くの目で子どもたちを見守り、指導できるようにしたい。 6. 校内研究では、「探求的な学び」について研究し、生活科、総合的な学習の時間での授業研究会を行う。
6				
7				
8				

学 校 関 係 者 の 評 価	学校運営のまとめ
子どもたちが学習に対して落ち着いている様子が見られた。特に聞く姿勢が以前より伸びているように感じた。自分で考え、前向きに取り組む姿もあり、GIGA端末等の活用も進んでいる。ニコニコ交流での異学年との交流をすることで、コミュニケーション力等育んでいることがわかる。学校、家庭と子供達の小さな成長を褒め、認めることでさらに子どもたちの自己肯定感も高めていく必要がある。発達段階に応じて学習の仕方も違ってくる。個性を大切にしながらも、子どもたちがよりよい学校生活になるよう学校・家庭・地域と子供達の将来のために今後も共に連携をさらに図っていく。	学校教育目標「共に笑顔で輝き合う学校をめざして」の具現化に向けて取り組みを進めた。学校は、家庭・地域との連携を大切に子どもたちのよりよい成長につながるよう、子どもたちに寄り添い、保護者の皆様のご理解ご協力いただきながら教育活動を進めてきた。一人一人が互いに尊重し合い、確かな学力をつけ、学ぶ楽しさを味わうことができるよう教育活動の工夫を積み重ねてきた。保護者の皆様からのご理解をいただきメール等を活用した連絡、登下校時の見守り等もよりよい形で進められるような協力体制である。地域の皆様からも学校運営を支えていただき、子どもたちが地域の中で安心して過ごせるよう地域行事を行っていただいた。教職員へは、働きやすい環境になるよう温かな配慮ある対応が進められている。学校関係者の皆様からいただいたご意見を真摯に受け止め、次年度の教育活動につなげていきたい。